

めだかの学校だより

令和6年11月1日

第125号

学舎：周智郡森町

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一二五回 校長 松林 建

「地方って消滅するの？」

私が暮らす群馬県の南牧村は、群馬と長野の県境に位置する人口約1400人の山村です。村内にはスーパーやコンビニはもちろん、農協、医療機関、金融機関もあります。ついでに信号機も1つもありません。今年には村の小学校と中学校が統合し、全校生徒数20名の義務教育学校になりました。村内の9割は森林で、主な産業は小規模な農業と林業、勤め先は役場、福祉施設、建設業くらい。典型的な過疎の村です。近年は高齢化と人口減少が止まらず、消滅可能性自治体ランキングで全国ワースト1位の座を10年間キープ。おかげで全国的に名が知られ、テレビや雑誌にも度々紹介されました。

この村の寂れた景観にひかれ、私は7年前に東京から南牧村に移住しました。自宅は住民7世帯の限界集落の古民家です。区長も経験して知り合いも増え、村暮らしを満喫しています。

そんな私が常々思うのが、地方という言葉への違和感です。地方創生、地方活

性化、東京一極集中など、地方は都市との対比でよく語られます。しかし、「地方」とは何を指しているのでしょうか？東京以外はすべて地方なのか、政令指定都市以外が地方なのか、東京でも郊外や奥多摩は地方なのか等、定義が曖昧です。

また、消滅可能性自治体という言葉も疑問です。南牧村は平成の大合併で合併しなかった（正確には周辺自治体と折り合わず、できなかった）ので消滅可能性1位になりましたが、合併して名前が消えた旧自治体単位で見れば、人口減少や高齢化が南牧村以上に進んだ地区も多いため、問題は日本全体の少子高齢化であって、人がどこへ移動しようが国の人口が増えるわけではないのです。そもそも地方から都市への人口流入は、時代に即した自然の流れです。産業構造を抜本的に変えない限り止まらないでしょう。これまで消滅した集落も山ほどあるの

域に人が集まるのは自明で、それが社会の変化というもの。消えるものは消えるのです。一方で、人口減が進む地方に移り住む人も、昔前と比べて増えました。その土地の魅力や人間関係に惹かれたり、自分の力を試したくなったりと理由はさまざまですが、そんな前向きな人が地方に移住して、次々と面白いことを始めています。私はこの動きにとてもワクワクします。なぜなら、地方でしか経験できない仕事や暮らしを楽しんでいるから。社会の変化とともに、豊かさの定義も多様化しているのです。

そんな私が住む南牧村は、果たして消滅するの？それとも持続するの？私の答えは「どうでもいい」です。おそらく多くの村民も危機感など感じていないでしょう。なぜなら、自分の人生を生きるほうが大事だから。そして、もうすぐ自分自身がこの世からいなくなっているからです。政治家は地方を残すか残さないか、金をバラまくバラまかないの二元論より、こうした地に足がついた議論から政策を語ってほしいものです。



めだかの学校伝言板

第125回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／松林建

教頭／富田久美子

用務員／田村進治

給食係／※給食は取り寄せです。

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮 3150

「一宮総合センター」

※コロナはまだ取まっています。

消毒とマスクはして下さいね。

開校日／令和6年12月7日（土）正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）

32期通年テーマ：

『♪めだかは続くよ どこまでも…』

今回のテーマ：

《野を越え 山越え とし越えて…》

<時間割>

●1時間目 社会

「遠州地方のキリシタン燈籠」について 服部守孝先生

2・3時間目 音楽

「みんなで歌って年忘れ！」 埋田千聡先生・若尾和孝先生

●給食は取り寄せです。

PM3:15 閉校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■「第20回全国まちづくり交流会 in津別町」へ行ってきました!

令和6年9月27日～29日、北海道津別町で行われた全国まちづくり交流会へ松本芳廣めだか、溝口久めだかと行ってきました。

27日、中部国際空港から空路で約2時間、女満別空港に着くと「歓迎 全国まちづくり交流会」の旗とともに懐かしい顔が出迎えてくれました。津別町中央公民館で行われた前夜祭では太鼓やダンスによる歓迎があり、手作りの料理と全国のお酒やお土産が振舞われ、かがり火の支局長たちが紹介されました。めだかの学校から森の栗ようかん、遠州の地酒「花の香」も披露されました。

28日、早朝から町内の視察でオリンピックメダルのケースを作る山上木工の工場やアール・ブリュット美術館を見学しました。旧小学校を活用した工場には二宮金次郎像があったのが印象的でした。午後からは最後の交流会が始まり、津別町の3人の若者による事例発表がありました。佐藤津別町長のあいさつの後、大交流会が始まり、歴代の開催地によるリレートークが行われました。私たちも第11回開催地としてお礼と思い出を



3人で話しました。交流会後半では発起人の4人(船木、佐久間、国清、山本)による挨拶がありました。実はこの全国まちづくり交流会は今回の津別町で最後を迎えます。高齢化により一応の締めをしようと思案され、今回を迎えました。第12回で作られた「全国まちづくり交流会」の旗は津別町の篠原委員長から蘭越町の原田さんに返却されました。最後は恒例の阿波踊りで会場が一つになり、この大会の開催の縁の下の力持ちの実行委員に皆さんに壇上に上がっていただき、足助町の高野さんの掛け声で「ありがとう」の三唱で締めとなりました。

2003年の足助町から始まった交流の輪はここでいったんの締めとなりましたが、惜しむ声も多く、ひよっとして延長戦があるかもしれません。いずれにせよめだかの学校及び森町がこの輪に加わり築いてきたご縁は宝物でした。見えない糸はずっとつながっていると思いますので、引き続き交流を温めていきたいと思えます。PS: 29日翌朝早く津別峠へ雲海を見に行きましたが、雲海ではなく雲の中でした。その後再び公民館で解散式があり、別れを惜しみました。午後は佐呂間漁協に立ち寄り、報徳による組合経営を学びました。30日釧路に向かい、森町出身の発明王鈴木藤三郎の最後の事業地を見学しました。思い出に残る旅となりました。

(村松達雄メダカ)

■第19回遠江国分寺まつり

令和6年11月9日(土)、午前9時～午後2時まで、遠江国分寺史跡公園で、第19回遠江国分寺まつりが開催される。午前10時15分から午前11時頃まで、磐田駅

北口広場から府八幡宮経由、遠江国分寺史跡公園まで、国司参拝行列が行われる。豪華絢爛な雅びの世界。な、なんとそのチラシとポスター、浜松市の埋田千聡メダカのデザイン。好評だった。それに司会進行から和歌の吟詠まで。いやはやマルチ人間でございませよ。衣装担当は、磐田市の大島たまよメダカが担当したとのこと。共に凄いなア。その他国司一行には小山展弘メダカも参加している。国分寺まつりの問い合わせは、090・9021・1327(今井さん)へ。

■豊岡東交流センター文化祭

磐田市敷地の豊岡東交流センターでは、11月9日(土)・10日(日)の2日間、交流センター文化祭を行います。日頃の活動や絵画、陶芸、小ものなど展示しています。また10日の日曜日、10時から、コーヒーショップ開店。バラメダカ夫婦がやっています。ぜひどうぞ!!

■めだかの学校から大臣誕生!

浜松市の城内実メダカ。このたびの石破内閣で、経済安全保障大臣に任命される。いやめだか生から大臣誕生ですヨ。城内メダカは外務副大臣や環境副大臣、衆議院外務委員長などを経験している。外交は得意分野。経済安全保障も外交絡みのものも多々ある。まさに適任か。めだかの学校には多忙からあまり出席できなかったが、いつも連絡は寄こす。平成11年入校し、19年9月の第57回の校長。校長訓話の中で、「万民幸福」と言う言葉を胸に抱き、これからもぶれない政治家であり続けます。額に汗してまじめに働いた人が報われる、日本人であることに誇りを持てる真つ当な社会を共に目指しましょう」と書いている仲間として応援もするし、大いに期待もしよう。

『人・ひと・ヒト…だより』

●みなさん分かりますか? はじめにかまちよろうメダカから送られてきた特集号のカットです。この頃文字を忘れる様になって…、だって。



●磐田市の小山展弘メダカ。9月4日に男の子が誕生した、だって。名前は修平ちゃん。お父さん、メロメロでございませよ。ハイ。また10月27日衆議院選挙、当選おめでとう! 良かったね。

●三島市の野村諒子メダカ。今、三島市の歴史にハマっています。先人の思いを想像すると、住んでいるまちがより好きになります、だって。磐田市の小山展弘メダカ。彼も遠州地方の歴史にめっぽう強いですよ。一度地域の先人に光をあてたトークショーもいいかもね。

●小田原市の溝口久メダカ。自分のペースで暮らしていることはありがたいことです。全国に出掛けるには、こちらにいる方が都合がいいです。しばらくは小田原にいます。旅はまだまだ続きます、だって。旅はいいねえ。また10月3日静岡県立大学から本学において地域に係わる教育活動に貢献されましたので「県立大学地域みらいづくりフェロー」の称号を授与される、と。年1回講義に行く程度だけだけれど、だって。

●秋田県鹿角市の奈良努メダカ。いつも「めだかの学校だより」ありがとございます。いつか川を下って大海原へめだかの遠足をしたいですね。のんびりとゆっくりとズイズイ、だって。

●浜松市の水島加寿代メダカ。いつもありがとうございます!!!。雨続きの頃、お天道様のありがたみを実感しています。今ひとときのお日様が輝いてきましたら虫たちもほっとして泣き出しましたヨ。こんな時間がお気に入り、だって。

●磐田市の大島たまメダカ。カンカン日照り、残暑の次は止まらない大雨。いろいろ極端になりすぎてますね。ゆっくりボチボチ「綿」のプロジェクトを始めました。私自身は相変わらずバタバタ動き回っています。健康であればこそだよ(笑)。いや、この頃の天候、これは地球温暖化のなせる技だね。

●浜松市の埋田千聡メダカ。暑い夏は終わらない。9月もコンサートの予定がいっぱいです。飯田市にも行ってきました。(中野町を考える会)にも入りました。天竜川を北上したり、南下したり。だって。こちらにもまた大忙しのんだよ。10月も11月も。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。夏の暑さがこたえる日々です。夏は青春だとはしゃいだ時代は、今どこ?。近頃は夏に参っていません。しかしながら、まだ頭は腐っていないぞ! give upしたのは79年前の話だ! だって。79年前?。今は何歳なの? 79歳?(笑)。

●東京都東久留米市の菅原敏一メダカ。200回までやって、お互いの名前も分からなくなっても、皆で手をつないで歌をうたっていたら究極の地域コミュニティです。チャレンジしましょう、だって。

●磐田市の山下安範メダカ。来年4月13日~10月31日(184日間)まで開催される関西万博。様々な問題、開催経費、パビリオン建設費、アクセス問題、場所の土壌問題、チケット問題など多くを抱えながらも、現場は準備が進んでいます。そんな

万博ですが、ボランティア参加面接に行ってきました。1970年の思い出は「人混み」。楽しい思い出作りに参加したいと思えます、だって。

●長野県飯田市の河原俊文メダカ。水島加寿代メダカのお心遣いにより、10月18日(金)午後1時30分から、浜松市中央区のクリエート浜松で開かれる「三遠南信文化交流講座」で講師をします。ぜひ、だって。ごめんね、めだかの学校便りは11月1日発行予定。この時には終わってました。何人かのめだか生が出席してくれたら嬉しいね。

●袋井市の松本芳廣メダカ。昨年10月末からコーヒー屋を36回出店して、ホット615杯、アイス126杯を飲んでもらいました。毎週金曜、11時~13時頃まで、袋井市岡崎4007-1「茶ちゃ処」にて、500円ランチのお客様相手です、だって。9月の始めのことだから、今はもっと増えているね。問い合わせは090・7032・2477へ。

●浜松市の村木謙式メダカ。いつもありがとうございます。花博応援ありがとうございました。来年は3月21日から6月8日まで、花フェスタ2025が予定されています。レガシーを益々美しく仕上げますぞ!! だって。いいね、来々が楽しみだね。

●磐田市の伊藤英雄メダカ。まだ「気」はあるけど、出来ることは毎日にへって来たよ、だって。年を重ねるって、そういうことだね。(笑)。

●浜松市の間瀬亮太メダカ。「♪♪めだかは続くよ、どこまでも」良いテーマですね、だって。ホントですね。通年テーマ最高(笑)。

●浜松市浜名区の奥宮教生メダカ。「力があるから継続できる。継続は力」の証明。証は日常の姿勢」と思っている(笑)。

だって。そうかも。「バラさんから、めだかを取ったら何も残らない」と言われるくらいだもんね(笑)。

●東京都中野区のかまちよしろうメダカ。カラオケ(スナック)と、自作の歌でライブセッションに月イチで通っております、だって。今回の特集号のカット、書いてもらいました。ゴンちゃんとななちゃんもメダカたち。

●横浜市の山根圭二メダカ。めだかの学校事務局に、女子事務員を一人、入れられてはいかがでしょうか。おしゃべり好きな人、筆好きの方、だって。いやいや、優秀な女子職員はいますよ。3人も。職員会議では色々提案もしてくれそうですし、生原稿をパソコン打ちして間瀬メダカにメールで送ってくれているし、発送時には榊原明美さんも手伝ってくれるしね。助かっています、ハイ。

●掛川市の鳥山剛メダカ。10年前に左側腎臓を癌で摘出手術をして、今度は右側腎臓に癌が見つかり、浜松医大に、8月16日入院で、19日ロボットによる手術をすることになり、透析が始まる予定でした。三熊野神社と水神宮の境内の植物の心配をしていた所、医大から8月7日緊急にMRIの検査の連絡が来て、手術は中止して様子を見ることになりました。命拾いをしました。宮司から境内を管理する人が居なくなると困るので、神様のお導きと言われました。だって。まだまだ頑張るとも。大事にね。

●磐田市の宮澤博行メダカ。2024年の衆院選に無所属で立候補。前職は、自民党の衆議院議員だったが、自民党の裏金問題と週刊誌の記事で、辞任。その後、みそぎをしつつ、反省をしつつ再度挑戦。一生懸命に頑張っている姿を見ると、結果はどうであれ、つい仲間として応援もしたくなる。

デスヨネ。ハイ。

××× ×××

もっともつと伝えたいが、紙面の都合で今回はこれまで。お手紙ちようだいね。

《めだか春秋》

32年つづいた『ひさかた風土舎通信』、この6月、384号にて廃刊!

長野県飯田市上久堅の「小さな村の小さな出来事を記録に残すことをねらい始めた『ひさかた風土舎通信』は、No.1を創刊してNo.384まで、デジタル時代に抗してアナログの手書きの通信だ。毎月1回、4ページのタブロイド版で450部印刷発行して、内外の仲間や研究者等に配布してきたが、諸般の事情により、6月30日のスタッフ会議で廃刊することに決定しました。…今回は2頁で、「あとがき」には、デジタル時代化というのに、それに抗して手書きのアナログの風土舎通信も、毎月1回32年間続けて発行してきたが、高齢化には勝てず、ついにNo.384号をもって廃刊に至りました。ご愛読に多謝。(は)。

発行人は、飯田市上久堅の長谷部三弘メダカです。「風土舎通信」には、私やめだかの学校も、何度か掲載していただきました。送られてくるたびに励まされたものです。手書きの文字を見ては、長谷部さんの体調の状況が分かりましたヨ。(笑)。長い間ありがとうございました。「めだかの学校」も、この9月で32年になりました。「便利」の発行は年4回ですが、200回まで頑張ってみます。あと19年ほどあります(笑)。(ハラメダカ)

■事務局だより

10月も半ばをすぎると、どこからかキンモクセイのいい香りが漂ってきます。我が家には3本あります。まだ小さな木ですが…。また桂の葉が枯れ落ちる頃になると、甘いスイーツの香りが漂ってきます。ついシヨートケーキが食べたくなります。(笑)

さて、第124回めだかの学校は9月7日の土曜日。月日の経つのは早いですね。32年目になります。期初特別授業で、校長は大橋町代、教頭は服部守孝、用務員は伊藤英雄。3人は長い間縁の下の力持ちをやってくれています。感謝！感謝です。32期の通年テーマは、童謡「線路は続くよどこまでも…」からいただいて、『♪ゆめだかは続くよどこまでも…』に。今回のテーマは、この夏の暑さに絡めて「暑さも乗り越えて…」。

それにして暑いですね。10月に入っても30度のところも。授業の方は、建学の精神の唱和や、給食につけたデザート。小国神社限定の開運招福「こづち」についての



由来を、榊原淑友メダカが話す。いいことがありそう。給食も美味しかった。全員前に並んで写真撮影。

1時10分から校長訓話。大橋町代校長「子育て中に習字を習い、今は師範に。命の大切さについて、子牛の絵本『もうすぐたべられるぼく』（はせがわゆうじ作）の絵本の読み聞かせをする。絵本を見ると、グツとくるね。事務局からは、72文字の提出課題の返事状況を話す。95通のうち45通が返事なし。4頁建ての予定を2頁建てに。カットの絵は、かまちよしろうメダカが、ゴンちゃんとななちゃんメダカたちで書いてくれた。

期初特別授業は、村松達雄先生の「報徳と鈴木藤三郎と台湾と」。プロジェクトを使って、二宮尊徳の教え「至誠、勤労、分度、推譲・積小為大・一円融合・荒蕪の力で荒蕪を開く」など二宮尊徳翁の考え方や実践を資料を通して話す。遠州地方には、安居院庄七が報徳社を結社させ、二宮尊徳の教えを広め、各地で実践。また森町ゆかりの偉人、鈴木藤三郎や藤江勝太郎、鳥居信平の台湾に産業の種子を蒔いた人たちを語る。そうした縁で今も台湾との交流がある、と。



じっくり講義を受けたあとの、次回3役発表では、校長松林建、教頭富田久美子、用務員田村進治。12月7日の第125回めだかの学校の新3役、どう盛り上げてくれるか、楽しみです。そのあとは、みんなで輪をつくって「今日の日はさようなら」を歌い、握手しあつてお別れしました。みんな嬉しそうでした。

今回は編集せずにユーチューブで授業の様子を流しました。見ていただいたでしょうか？

第125回めだかの学校の職員会議を、10月5日(土)学舎で10時から開く。榊原淑友が監が、栗むしようかんとお茶を用意してくれた。出席者は、榊原淑友、伊藤英雄、服部守孝、中村明男、田村進治、鈴木真弓、大島たまよ、埋田千聡、榊原幸雄の9名、松林建校長と富田久美子教頭は欠席。今回のテーマは通年テーマに沿って『野を越え、山越え とし越えて…』に。授業の方は、1時間目は自薦の服部守孝先生の社会「遠州地方のキリシタン灯籠」について。2・3時間目は、音楽「みんなて歌おう お年忘れ」。埋田千聡先生と若尾和孝先生。その他に、松林建校長から「LINEでつながりたい」とIDを送ってきたがわからず、埋田千聡メダカと大島たまよメダカが登録してくれた。その際にめだかの学校のグループをつくる。現在メンバー登録は34名となっている。まだの人は友だち登録を！



第125回めだかの学校の職員会議を、10月5日(土)学舎で10時から開く。榊原淑友が監が、栗むしようかんとお茶を用意してくれた。出席者は、榊原淑友、伊藤英雄、服部守孝、中村明男、田村進治、鈴木真弓、大島たまよ、埋田千聡、榊原幸雄の9名、松林建校長と富田久美子教頭は欠席。今回のテーマは通年テーマに沿って『野を越え、山越え とし越えて…』に。授業の方は、1時間目は自薦の服部守孝先生の社会「遠州地方のキリシタン灯籠」について。2・3時間目は、音楽「みんなて歌おう お年忘れ」。埋田千聡先生と若尾和孝先生。その他に、松林建校長から「LINEでつながりたい」とIDを送ってきたがわからず、埋田千聡メダカと大島たまよメダカが登録してくれた。その際にめだかの学校のグループをつくる。現在メンバー登録は34名となっている。まだの人は友だち登録を！



■第32期の受付を始めます。

第32期は令和6年9月1日から令和7年8月31日までです。毎年度手続きが必要ですが、まだ手続きがなされていない生徒は、至急手続きをお願いします。入校手続きがなされない生徒は自主退学となりますので、ご注意ください。新しく入校を希望される方がいましたら事務局までご連絡ください。申込書と資料をお送りします。若い人が入るといいですね。(笑)

■今回も遅れました。ごめんなさい。いつも生原稿のメール打ちの石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、大島たまよメダカ、埋田千聡メダカ、水島加寿代メダカ、写真撮影の横山忠志メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう。感謝！

■めだかの学校だよりの原稿を！

今回の発行は、令和7年2月1日予定。締切1月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙・FAX・LINE・FBで、メールの方は、

《mavun.t100@gmail.com》
間瀬亮太090・5009・0986です。
(アドレスが変わりました。まだ昔のアドレスも可。)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39・62・6691 (FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一
宮3150。電話 0538・89・77
30 開校日の午前11時以降のみ使用可。
携帯 080・1612・9130

